

松江市立学校における外国語教育について

松江市教育委員会

1. 基本的な考え方

グローバル化の進展の中で、英語力の向上は日本の、そして松江市の将来にとって極めて重要である。文部科学省が示す学習指導要領に基づき、松江市立小・中・義務教育学校及び松江市立皆美が丘女子高等学校における外国語教育の推進・充実を図る。

英語に堪能で、様々な文化を背景にもつネイティブ・スピーカー等や地域人材を効果的に活用し、児童生徒一人ひとりの個別最適な学びと、他者と協働する対話的で深い学びの実現を通して、主体的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を目指す。

2. 具体的方策

- (1) 松江市立小・中・義務教育学校及び松江市立皆美が丘女子高等学校に「外国語指導助手 (Assistant Language Teacher: 以下 ALT)」を、小学校に「小学校外国語教育指導協力員 (以下指導協力員)」を配置し、外国語 (英語) 教育の推進を図る。

① 授業や英語に関わる学習活動の充実

日本人英語教員に加え、ALT や指導協力員による指導や補助を取り入れることにより、指導法、教材等の工夫、改善、開発を進め、主に次のような効果が期待される。

- 生きた英語に触れる中で、基本的な表現や語彙、音声等に慣れ親しませる。
- 学習したことを活用し、実際に思考・判断・表現する対話的な言語活動を充実させる。
- 児童生徒の英語学習への知的好奇心と、主体的に学習に取り組む意欲を高める。
- ALT とのチームティーチングにおいて、プレゼンテーションやディベート等の協働的な学びの場面を設定し、対話的で深い学びを実現する。

② 英語使用が必然となる環境づくり

授業内外において ALT や指導協力員とともに活動及び生活することにより英語に触れ、英語を使用する必然性のある場面を拡充する。それらの体験により児童生徒の英語によるコミュニケーション能力や失敗を恐れずに積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。

③ グローバルなものの見方・考え方の育成

国際文化観光都市松江市を担う国際感覚を身に付けた人づくりを目指す。ALT や指導協力員を通して様々な文化や価値観を理解するとともに、様々な学習活動や体験を通して日

本や松江市のよさを認識させる。さらにそれらを発信できる児童生徒の育成を目指す。

- (2) 外国語教育における小中高等学校の円滑な接続のため、松江市の小中一貫教育を基盤に各学園（中学校区）において義務教育9年間を見通した外国語教育を進める。学園ごとに授業研究の機会や連絡会を設定する。ALTについては可能な限り学園ごとの配置とする。
- (3) 学習指導要領の趣旨を踏まえた授業改善を推進するため、教育委員会が主催する研修会及び授業を通した研修等の充実を図る。その際、必要に応じて、島根県教育委員会、島根県教育センター、ALT派遣業務委託事業者及び指導協力員等と連携を図る。
- (4) 外国語教育の推進のため、現在実施している「松江市長杯小中学生イングリッシュコンテスト」のさらなる充実を図る。